

会 議 記 録 (概要)

会 議 名	令和7年度第1回三田市総合文化センター運営評価委員会
日 時	令和7年7月1日(火) 14時～16時
場 所	三田市総合文化センター 会議室1
出 席 者	関谷委員長、加藤副委員長、山本委員、板垣委員、的場委員、小中委員、鏑木委員
事 務 局 等	(市民生活部)横溝部長、榎本次長 (文化スポーツ課)畑課長、西副課長、山本
指定管理者	江口課長、池上館長、神尾
添 付 資 料	次第、資料1～6
傍 聴 者	なし

会議概要

1 開会

2 市民生活部長あいさつ

3 確認事項

(1) 会議の招集・成立について

委員8名中7名出席により成立

(2) 会議の公開、会議録の取り扱い

会議は公開

(3) 指定管理者の招致について

諸般の説明等のため指定管理者出席

4 報告事項 (以下、指=指定管理者、委=委員、事=事務局)

(1) 令和6年度運営評価結果について【資料1～4】

指 <資料1～3により説明>

- ・コロナの影響から脱してきている。しかし、令和5年度に勢いよく戻ったこともあり、令和6年度は横ばいの傾向。
- ・文化祭への来館者数が減少。出演・出展者の関係者以外への告知に工夫がいる。
- ・恒例の取組に加え新たな取組を実施。その1つが高校生による探求発表会。市民との意見交換の場である郷の音ラウンドテーブルにおいて郷の音ホールでやってみたいことを募集し提案のあったアイデア。結果、市内6校全ての高校に参加いただけた。1月開催に向け5月から月1回ミーティングを行った。高校生からの発案により発表だけでなくポスターセッションやワークショップも実施。
- ・こころ羽プロジェクトを実施。体験格差が広がっている背景から、経済的困難を抱える家庭を無料招待するもの。2公演80名来場いただいた。周知にあたっては社会福祉協議会、子ども家庭課の協力を得た。
- ・スクールシートは児童・生徒を無料招待して鑑賞機会をもってもらうもの。300名の参加があった。1月のニューイヤーコンサートについては、出演するレジデンシャルアーティストが小学校へのアウトリーチ活動の際に宣伝を積極的に行ったことにより完売した。
- ・大ホールの稼働率44.4%。目標48%には達せず。土日祝については78.8%で

あり、平日の稼働率が引き続きの課題。小ホールの稼働率は、目標 65%に対し 70.2%。施設全体は 55.9%。ドローンプログラミング教室の定期的な利用によりワーキングブースの稼働率が上昇している。

- 委 探求発表会は昨年度と同様に実施予定か。
- 指 既に高校2年生を対象にした第1回運営委員会を開催済み。昨年度の取組について説明し、今は何をやりたいか考えてもらっているところ。探求発表は必須でそれ以外の部分についてはみなさんの意見をお待ちしていると伝えている。第2回は8月29日を予定しているので、先生方とも相談してもらっている。
- 指 最終的な目的としては、郷の音ホールの知名度向上や文化の振興なのか。
- 委 最終的な目的はご指摘のとおりですが、学校にとっては、重要な科目の一つに位置付けられている探求学習について、学外で発表をすることで学校のPRになるという側面もある。
- 委 探求発表を見に行ったが会場が大きすぎる。発表者と観客の関係が希薄になるので、もっとコンパクトな会場のほうがよい。プロの目線でアドバイスすべきではないか。
- 指 昨年度は生徒の意見により大ホールとした。しかし、私学の授業日と重なり参加ができない生徒もあり、観客が少なかった。今回も大ホールという意見であったので、1校200人は観客を連れて来てください、また観客が少なければ次回は大ホールを使用しないと言っている。
- 委 生徒の探求発表は言わば学会発表である。生徒たちが発表に専念できるように、施設に関してはプロとして支えてあげるのがよいと思う。
- 事 令和6年度事業についての評価結果について説明させていただく。
＜資料4により説明＞
- 委 市民文化祭と市美術展について予算額、決算額を見ると、指定管理者が持つべき予算の半分を占めている状況で、指定管理者の裁量の幅が少なく、この2つの事業が課題となっていると認識している。評価表では指定管理者を評価することになっているが、市が指定している事業なので、市が私事としてこの評価を受け止めていただきたいということを補足したい。
市民文化祭や市美術展の評価結果に対して市が今後どうされるのかということをお聞きしたいがどうか。
- 委 市民文化祭の比重の重さや集客の課題は認識している。以前は市直営で開催し、緞帳の操作等、市の職員が行っていたが、今は舞台操作や進行等の専門の方がおられるので、専門の方をお願いすることでより良いものができるのであればお願いしたいという思いを持っている。ただ、この評価表において記載いただくのは、指定管理事業としてお願いした事業の実施状況に対しての評価ということになる。
- 委 以前のように市の直営で実施する等、企画を作り変える幅はあるか。
- 事 現指定管理期間中においては、現行の方法で実施することになるが、内容をより良くするためには所管課と協議していく必要がある。
- 委 出展者の減少や三田市の方の割合が増えているということであるが、特定の方の発表会になっていないか。若い人のアート作品を取り入れようということになったときに、指定管理者にお願いするのか、新たに予算をつけるのか、検討するためのプロジェクトチームを設けるのか、具体的にどう動いていくのか。市として

は、今の延長で参加者の幅が少し広がったらよいということなのか、みんなでディスカッションする場を設けようと考えているのか。

事 委託ではなく指定管理なので運営の自由度がある。その自由度のなかで創造性を発揮していただく。昨年度であれば、指定管理者で調整くださり、障害のある生徒さんの作品展示が飛び入り参加で実現した。

委 出展者の増加について具体的なアクションプランはあるか。

事 非常に難しい課題。市の人口が減少し、年齢構成も変わるなかで、昨年と今年で分母が違えば減少することも考えられるので、そこはしっかり分析すべきと考えている。文化に限らず地域活動やスポーツの分野でも若い人は働きに行っていて、なかなか参加が難しいため、どのように裾野を広げていくかが課題であると認識している。そういう意味で固定化しているのはご指摘のとおりである。

事 固定化という面では、指定管理者に担っていただくなかで、バンドフェスティバルの企画や、ダンス等新しいジャンルの出演もあり、徐々に参加者の幅が広がってきている。

委 美術展についても、昔ながらの油絵だけでなく若い人の新しいアートを導入するとよいのでは。

事 美術展には高校生の作品も出していただいている。

委 それであれば、広報等の工夫で、より多くの人を目にとまるようにする必要があるのではないか。

事 展示内容が同じというご指摘もあるが、生活の中に文化があり活動を継続できるということも尊重すべきことである。

委 今までの方は継続してやっていただいて、広げていくためには若い人の力が必要。

委 市民文化祭の展示に参加している。展示作業が大変で、より良くしたいというより前のおりという雰囲気がある。文化協会側にもどうしたいか聞いてもらえたら良いと思う。

指 若い世代の参加について、学校等にもヒアリングしているが、学校行事等の関係で11月は難しいと聞いている。市民文化祭は11月3日というご意見があるが、開催日の変更も検討するべきかもしれない。

委 11月に決めずに、年間を通して文化の発表・展示をするのはどうか。

指 それも検討できると思う。

委 文化協会の和文化のつどいについても市民文化祭に入れてもらえたらと思う。

指 予算や他の団体との兼ね合いもあり課題整理が必要である。

委 11月は学校との連携が難しいということだが、市内の絵画教室や書道教室等の先生に声をかけるのはどうか。

指 お声をかけているが、参加いただけていない状況。

市美術展については、現在、運営委員になっていただける方が不在で探している状況である。他市では審査をやめて展示だけにしたところもある。姫路市は文化祭を中止した。

委 審査はしないといけないのか。

指 運営側の問題ではあるが、審査せずに全ての作品を展示するには施設的な制約がある。

委 課題がたくさんあるが、それを持ち合って話しあう場がないという状況で、根本的にあり方を考える時期にきているのではないかと思う。他の市であったことだ

が、分析している間に3年が経ち、昔であれば3年では大きく変わらなかったが、今は3年で状況が大きく変わってしまうという事情もある。

委 開催ありきで進んでいるが止めることも考えないといけないのではないか。課題がある事業を指定管理者に依頼し、それを評価するという事に違和感を感じる。市に我が事として考えていただきたい。指定管理者には自由度を発揮させるべきであるが、これらの事業があることで発揮できていない。評価点をそのまま指定管理者の評価として捉えるのは違うように感じる。他の事業を見ると指定管理者は創造性を発揮できる領域においては十分に発揮されていると思うが、市民文化祭、市美術展については発揮する余地がないと感じる。

事 おっしゃる通り事業自体の課題によって今回の評価となっていると思うので、事業の在り方を含め市でも考えていく。

委 来年度は11月ではなく、別の日程に決めてはどうか。

事 市として11月を指定しているわけではなく、これまで参加者さんと調整するなかで定着してきたものである。

委 市からアプローチして指定管理者と根本的に検討してはどうか。

委 色々な地域で長年やってきた市民団体による実行委員会が、人員不足や高齢化の影響で崩壊しつつある。一方若い人たちは、長年団体にいる高齢者の意見しか通らないと感じている。若い人を巻き込むには「共感」がキーワードであると感じている。

(2) 令和7年度の事業計画について【資料5】

指 <資料5に基づき説明>

・管理運営の3つの基本方針に沿って下記を実施

- ①7期目のレジデンシャルアーティストのオーディションを実施し、3組を選出。指定管理が今年度までであるため、通常2年の活動期間を今年度のみとしている。
- ②発達がゆっくりな小学生、支援の必要な小学生を対象に音楽ワークショップを実施予定。鑑賞だけでなく実際に音楽を演奏する楽しみを知ってもらう。昨年よりバージョンアップし、ワークショップの後にコンサートを開催する。こころプロジェクトも継続している。
- ③三田まち博、トライやるウィークの他、三田まつりや農業まつりにも協力していく。

・市指定事業として、視覚障害者を対象とした「青い鳥学級」開催に協力

委 アウトリーチで学校に訪問すると言われたが、学校からホールに出向く方法もある。学校に来てもらうと授業の一環になってしまうが、音楽会に出かけるとなると特別感、ワクワク感がある。自分自身も学校から出かけた音楽会でシンフォニーを聞いていてバイオリンの道に進むきっかけになった。オーケストラに来てもらうには費用もかかると思うが。

指 数年前に企画をしたことがあったが、コロナの影響で流れたことがあった。今後、助成金も活用して検討したい。

委 大編成でなくても良いのでプロの演奏家による子どもたち向けの楽しい音楽会をやるのは良いのではないか。

委 プロの音を聞くと子どもたちは変わる。

委 郷の音オーケストラをつくって登録してもらい都合のつく人に出演してもらおうと
いったかたちも良いと思う。5周年に集まったオーケストラはとても良いオーケ
ストラだった。

5 協議事項

(1) 令和7年度モニタリングについて【資料6】

事 <資料6に基づき説明>

- ・鑑賞事業のモニタリングについては、モニタリングいただく際に、総合文化センターの予約窓口にお申し出ください。その際にモニタリングシートをお渡ししますので、モニタリング後原則1週間以内に事務局にシートのご提出をお願いします。なお、モニタリングの対象は、総合文化センターの自主事業となります。
- ・年間評価については、昨年度と同様、モニタリング対象とする事業について、「市民文化祭」「三田市美術展」「シティフレッシュコンサート」の他、1事業をこの会で選定いただきますようお願いいたします。
- ・事務局としては、本年度の特徴的な事業として「石見神楽」または「パンどろぼう」を提案いたします。

委 「石見神楽」「パンどろぼう」以外に候補にあがったものはあるか。

指 ピアニカとドラム等のジャズ形式の演奏会やレジデンシャルアーティストのコンサ
ートも候補にしていた。

委 話がそれるが、指定管理期間が3年ということだが、準備、実施、評価のサイク
ルを次につなげようと思えばせめて5年は必要。文化事業は2、3年でなせるも
のではない。伊丹のオーケストラをはじめ200人だったお客さんがコツコツ30年
継続するなかで満席になるようになった。

事 今回は施設更新を検討するなかで3年間としたが、ある程度の年数があつてこそ
指定管理のメリットも生かせると思うので考えていきたい。

委 評価対象の事業について、「石見神楽」「パンどろぼう」両方でも良いのか。

事 他の項目は1つの事業で5点満点のところ、これだけ2つの事業の平均点という
ことになるので1つ選んでいただくほうが望ましい。

委 シティフレッシュコンサートを対象からはずしてはどうか。

事 これまでの評価との比較という点で、4項目は固定で1項目を選定いただきたい。

委 日程の都合が悪い場合はどうするのか。

事 必ずしも全ての委員に観覧いただけるとは限らないので、その場合は指定管理者
からの事業報告で評価いただくことになる。

委 「パンどろぼう」のほうが子どもも鑑賞でき、三田市民の参加が多いように思うの
で、評価にふさわしいのではないか。

事 評価対象は「パンどろぼう」とさせていただきます。